発起人挨拶「同窓会連合会と母校愛」

文理・人文学部同窓会会長　室伏　勇

茨城大学は昭和２４年に戦後の新制大学の一つとして開学しました。文理学部は旧制水戸高等学校を包括する形で創立されました。水戸市渡里町の旧陸軍跡地が私たちのキヤンパスとなりました。それが今の茨城大学の水戸本部の構内です。

同窓会の組織は工学部の多賀工業会が最も早く発足し、そのほかの同窓会は段階的に組織され、会の運営や活動は個別に行ってきました。

私たち文理・人文学部同窓会が発足したのは昭和５７年（１９８２年）で、その年第１冊目の同窓会会員名簿を発刊しました。以後会員名簿の発行は会の重要な事業となりました。同窓生の親睦に欠かせない情報がこの名簿に盛られているからです。会則に名簿発行は４年に１会回定期的に行うことをうたい、その通りに実施し、本年６冊日を発行しました。大学より人文学部Ｂ棟５階に事務所を設けさせていただき、そこを拠点に活動しています。大学創立５０周年には記念植樹などを行いました。結成後今年で２４年になり、私が３代目の会長となります。

私たち茨城大学同窓会に籍を置く者にとって、平成１８年９月３０目は記念すべき日となりました。それは茨城大学の５つの学部同窓会が横断的に一一体化されて、同窓会連合会となったからです。

これには茨城大学の強い要請がありました。平成１６年４月に国立大学法人となった茨城大学にとって、大学と同窓生との絆をもっとしっかりと結んでおきたい、それが大学の発展に欠かせない、そのような見地から同窓会の一本化が大学の課題の一つとして同窓会に提案されました。これを受けて私たち学部同窓会も母校の発展になるなら、と一部に異論はありましたが、まさに「小異を捨てて大同に就く」、といった形で賛同が得られました。

法大化後の茨城大学は、教育・学術研究と合わせて、地域連携事業を大学の使命の一つに加えました。社会連携事業会と地域連携推進本部とを組織し、法大化後の大学の進むべき道をいち早く公表しました。「地域に支えられ、地域から頼りにされる大学」を目指したのです。大学の生き残りをかけた展開と言えましょう。その際、あらゆる分野で活躍する７万人の同窓生の存在が、将来の大きな頼りになるわけです。

同窓会の組織はこうして一本化されました。同窓会連合会は大学のサポーターでもあり、応援団でもあります。地域社会と大学・学生との架け橋になりたいとも思います。

私たち同窓生は、この連合会の発足を目のあたりにし、改めて母校愛を感じたのではないでしょうか。連合会設立の一日はそのような日であったと思います。